

9月になったとはいえ、まだまだ暑い日が続く。夕方になると、いつの間にか日が短くなったことに気づく。一時期の猛暑と比べると、だいぶ楽になってきた。空を眺めていると、夏の雲から秋の雲へと変わっていくのがよくわかる。

この夏は、福島盆地でも局地的な雨が降っていることを認識することができた。思っていたよりも、雨が降る範囲が狭い。空に目をやると、雨が降っている場所がわかる。勤務地は雨である。自宅に向かう。途中からアスファルトが乾いている。こんなことがよくあった。

なぜ、今までは気づかなかったのだろうか。雨が降りそうな時間帯に車で移動するようになったのである。今までは、もっと遅い時間に車を運転していた。外は、すでに夕闇に包まれている。そのためか、外の様子がわからなかった。

夏の雨は、昔からこうだったのだろうか。降り方が、変わってきているような気がする。空に浮かぶ雲に、狭いエリアに強い雨を降らせるほどのパワーがあるとは思えない。いつもは、きれいな雲も、雨を降らせるときには、やや黒味がかり、その姿を変える。何だか、雲が急にこわい存在に思えてくる。

9月は、長月とも呼ばれる。月の異名、異称、和風月名である。なぜ長月なのか。旧暦の9月は、現在の暦だと、9月下旬から11月初旬にあたる。この頃になると、夜が長くなり、月が出ているのも長くなる。そのため、「夜長月（よながつき）」と呼ばれる。また、稲穂が成長する時期のため、「穂長月（ほながつき）」とも呼ばれる。これらの呼び名が略され、「長月」になったといわれている。

9月の呼び名は他にもある。寝覚月（ねざめづき）、小田刈月（おだかりづき）、紅葉月（もみじづき）、色取月（いろどりづき）などである。

寝覚月とはどういうことか。夜が長くなり、夜中に冷え込むようになる。眠っている途中で目が覚めることも多くなる。また、秋は物思いの季節である。いろいろなことをあれこれと思わずらうと、どうしても眠りが浅くなる。そして、夜中に目覚めてしまう。昔の人たちにとって、9月はそんな月だった。

9月も、下旬を迎えると、暑かった夏への恋しさが残るとともに、秋の夜長の名月を眺めながら過ごしやすい空気を肌で感じるようになる。旧暦とのずれはあるにせよ、やはり、9月は長月である。これから、徐々にいい季節へと向かっていく。